大日本コンサルタント社長に9月18日付で就任した川神雅秀氏。経営状況が厳しくなると、一般的にノルマを課して厳しく管理する傾向が強まるが、「一人ひとりを大事にする温かい会社にすれば、組織力も高まる」と強調する。働きやすい環境を整え、会社全体が一体感を持って仕事ができれば、自然に収益も向上する。川神社長に経営の基本的な方針、今後の戦略などを聞いた。＝関連3面

＊　＊

――政権交代でどのような影響を見込んでいるのか

「B／C（費用対便益）だけで事業を評価すると、大規模が対象となるだろうが、新設が減る可能性がある。ここ数年は、市場が縮小傾向になるので、淘汰（とうた）の時期を迎え、どう生き抜くかが重要になる。結果的には技術力であり、会社が一丸となる組織力を高めることが大事だ。会社の内部体制を充実することが最優先となる」

――生き残るための戦略は

「協業、提携は視野に入れている。当社にない技術を補完することは当然のことと思っている。現在、耐震解析研究所とエーティックの2社とそれぞれ提携している。今後も必要に応じて実施する」

「政権交代によって地方の時代がくる。いかに地方で生き残るかが大事になる。地方の設計コンサルタントと情報交換や技術力の育成のほか、橋梁点検の仕事をお願いするなど、これまで連携してきている。お互いにメリットを生かす形で、地域に密着してやっていく。連携している会社は、全国に10社以上ある」

――新設の減少をどう補うのか

「水害なども含めた防災対策は、いままでコア（核）の事業ではなかったが、河川、砂防、斜面防災、耐震の技術者がいるので、この分野を強化する。環境も世の中のニーズが非常に高まっているので、取り組んでいく。かなりの構造物が老朽化していて、これに対するニーズがあるから、昨年、保全エンジニアリング研究所を設立した。研究所は、大学と連携しながらノウハウを蓄積しており、これから期待している」

「当社の環境は、道路系の騒音、振動という環境対策からスタートした。最近は、動植物のノウハウも蓄積している。コンクリート3面張りの川を元にもどそうという動きがある。多自然川づくりについて研究開発、実績を積みながら手がけていきたい」

――現状の課題は

「最重要課題は、成果品の品質向上だ。良い成果品を納めれば、結果として受注チャンスが増える。ミスがないようにMC（ミス・クレーム）運動を7月から実施している。コストをかけてでも徹底的に行う」

「もう一つは、収益の向上と労働環境の改善である。低価格入札の横行で収益は厳しい状況にあるが、いまの仕事のやり方を見直し、無駄な作業をやめて効率性を高めれば、まだまだ利益を確保できる。上司と部下、また横の連携を振り出しに戻って検討して、チームワークを良くすれば仕事のゆとりやコストダウンができる」

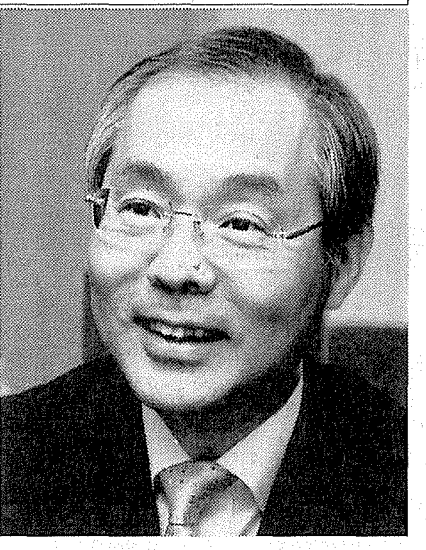
（かわかみ・まさひで）1972年3月長崎大工学部構造工学科卒後、同年4月佐世保重工業入社。83年大日本コンサルタント入社、98年情報企画部長、99年取締役技術本部長代理、2000年経営企画室長兼ITセンター長、03年常務、05年大阪支社長、07年西日本事業総括、08年9月専務技術統括担当を経て、09年9月から。島根県出身。49年9月21日生まれ、60歳。

記者の目

「遊びも仕事も真剣で、すべてに対して情熱的であり、負けず嫌い」という社内評に違わず、8月の決算説明会では、「社員の思いを一つにして、爆発的に組織力が発揮できるよう、その推進力になる」と決意を披露した。混迷の時代に経営者に求められるのは、理論よりも社員を鼓舞する熱い思いかもしれない。阪神大震災を起点に14年間、単身赴任が続いている。健康管理のため、休日はテニスで汗を流す。専門は耐震。自身の造語「日々、一歩、前へ」をモットーとする。

地元企業と連携を強化

大日本コンサルタント　川神　雅秀氏



新社長に聞く